

はじめに

本書で最も伝えたいのは「考えること」と「話し合うこと」の大切さなのだと思う。

これから綴る僕の言葉は、いつだってこの二つにつながっている。人の存在を決定づけてしまうような感激を生む根源には、二つがなければならぬ。しかし、それらはとても単純で、人にとってはあまりに当たり前すぎるがために、誰もが深く思いを巡らせることを忘れてしまっている。

昔に持っていた大きな一つの円は壊れ、僕たちの孤独な歩みは日々、加速している。本当は目の前に見えているはずの生と死すら、いつの間にか希薄になっている。気づけないまま、ただぼんやりと何も感じなくなっていくという恐ろしい事態が、まわりでは秘かに起きている。

だからこそ、もう一度、人が人のはじまりに立ち返る芸術として、病んだ世界を、心を救う治療薬として、本書を生みたい。

しかし、苦しいことに、僕の力だけでは何も残せない。それは後に綴る、個人が持つ生のエネルギー的にも、他者という観点的にも、先に示した二つがたった独りで表現できるものではないからである。

どうか、あなたにも協力してほしい。

専門的な知識など、何一つ必要ない。誰とも思いが一致しなくても、まだわからなくて構わない。僕もその一人である。

大切なのは、僕とあなたが考えて、話し合うこと。

本書を通して考えたことがあるが、ぜひ、それを誰かに話してほしい。二つを表現する過程で、『芸術の治療薬』という本書が、あなたへ、自身を少しだけ変えるような感激を伝える言葉となれば、あなたがこれからする幾種類もの表現の助けとなれば、それ以上に幸せなことではない。

※ 本書における注意事項について

本書における注意事項は、文章の末尾に記載する予定である。なお、公開するWeb媒体（ブログ）では、先に示すようにしたいと思うため、参照されたい。

『芸術の治療薬』はじめに

執筆 二〇二六年三月一日

著者 八坂零^{やさかれい}

掲載 芸術の星座